

令和5年度 学校経営計画及び学校評価（年度当初 職員会議資料）

1 めざす学校像

【めざす学校像】 児童生徒・教職員の学び合いと「つながる笑顔」、「個を活かし合える多様性社会」に向けて期待と夢を育む「港」となる学校
 1 医療的ケアを含めた安全安心な校内体制構築 2 質の高い授業実践 3 互いの強みが発揮できる教職員 4 社会と繋がる力の醸成

2 中期的目標 赤字・・・R4より修正・加筆箇所

1 安全安心を守る力の向上 ～ 児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校 ～

- (1) 学校生活のあらゆる場面で人権が尊重されるよう各人のオーナーシップ・メンバーシップ・ステewardシップの感覚を研ぎ澄ませていく。
- (2) 高度な医療的ケアを含めて卒業後を見通し、スピード感を持ちつつ、個性に応じてスムーズに実施できる体制構築と環境整備を行う。
- (3) 事故・事案の未然防止に努めるとともに感染予防、食物アレルギー、大規模変災、情報セキュリティへの対応力向上を図る。

2 授業実践力の向上 ～ 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い授業実践ができる学校 ～

- (1) 児童生徒が達成感、自己有用感を育みながらより良く生きるための学びの在り方を常に自問し、授業改善に向けた研究・研修を充実するとともに、切磋琢磨の姿勢を向上していく。
- (2) 自立活動における専門性を徹底して向上するための学びのシステムを構築する。
- (3) 学ぶ筋道、内容が見渡せるシラバス、自立に向かう姿がわかりやすいルーブリック評価表、観点別評価、より深い学びにつながる交野マトリクスの活用を進める。
- (4) 電子黒板・タブレットや視線入力装置等のICT機器やアプリ、支援機器、リモートシステムの積極的活用を推進していく。
- (5) 訪問教育の充実に向け、遠隔授業やスクーリングを一層充実していく。

3 協働する力の向上 ～ 教職員が学び合い、情報共有の上で多彩かつ柔軟な組織運営ができる学校 ～

- (1) 充実したOJTによる次世代育成や継承スタイルをデザインし、信頼感と緊張感を持ちながら学び合うことを職場風土として醸成する。
- (2) 各部署で蓄積されたデータの整理、整備を必須とし、ICTを活用するなど合理的な情報共有・引継ぎシステムを作るとともに、創意工夫や柔軟な対応をしていく。
- (3) 教職員が心身ともに健康で、その使命感と誇り、やりがいを持ちながら児童生徒に向き合い、互いが持てる力を最大限発揮できるようパートナーシップに溢れた働きやすい職場環境づくりをしていく。

4 社会と繋がる力の向上 ～ 児童生徒・教職員が自分らしさを発揮（キャリア発達）しつつ、使命感を醸成する学校 ～

- (1) 「居住地校交流」「地域学校間交流」「支援学校間交流」等の充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。
- (2) 「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者・地域住民・関係機関との協働を進めながら、地域の支援教育力向上の使命を最大限に果たしていく。
- (3) 児童生徒・教職員が、その学びや想い、体験、実践を校外に積極的に発信していく。

※すべての取組を通じ「仕事のコントロール度、やりがい、達成感」「サポート体制」「量的、質的負担感」等の相関数値である職場の総合健康リスクを、府内職場平均値(102)の近似値を維持する。[R2(106)、R3(101)、R4(104)]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 安全安心を守る力の向上	(1) 人権尊重の教育推進	ア 人権意識セルフチェックシートの内容を改訂し、学期開始月初めに学年会で実施、共有。 R4 作成した不祥事防止予防標語は、毎月職員会議で管理職より、関連する生起した不祥事と共に紹介。	ア セルフチェック回答率の向上。[90%]学年会で共有。[学期に1回]R4 年度更新済みの不祥事防止標語の掲示[毎学期]	
	(2) 心身の健康を守る教育の推進	ア 新年度の授業指導體制確定時に、「授業入り込み要請シート」を活用、授業進行を中断することなく、看護師の支援体制を事前に整え、機動的迅速かつスムーズにケアの実施できる体制整備を進める。 イ 食物アレルギーを含め、災害時の個別の対応表を充実させる。予備薬持参者用の服薬対応様式及び課業時間外の注入対応様式を周知し、担任が整理・活用する運用を定着させる。	ア 医療的ケアで、授業・行事が滞ることなく実施でき、児童生徒、保護者負担軽減が図れる。 イ 緊急時対応のスムーズな実施、保健室、担任が協働し対応表を更に見直しブラッシュアップする。	
	(3) 危機管理体制の強化	ア 断水・電源喪失に備えた医ケア児を守る備蓄品を充実させ、防災備品室運用の周知徹底。体育館を避難会場とする運営訓練を引き続き実施。保護者による備蓄品確認や引き渡し訓練を検討。 イ 個人用避難袋の更新定着、発災想定時間を変えてHP 通信フォームでの安否確認。	ア 備蓄水の運用方法検討、訓練マニュアルの改訂実施。備蓄品の入れ替え作業を保護者参画で防災意識向上。 イ 個人避難袋保管場所検討、フォーム入力訓練は時間を変えて実施。[2回]	

2 授業実践力の向上	(1) 質の高い授業実践	<p>ア 学部間1日出張制度と職員室フリースペースの活用で相互意見交換促進</p> <p>イ 授業改善に向けたルーブリック評価表や交野マトリクスの活用と、日々の児童生徒の学習の様子を3観点別に記録するなどの工夫を加え、個別の指導計画の充実を図る。</p> <p>ウ 昨年度に引き続き「小グループ型研究授業」実施。6～7名のグループ編成で、授業者と支援者に役割分担の上、授業見学、協議を行う授業者支援会議システムの充実を図る。</p>	<p>ア 他学部で1日出張の研修者が全校で18人[16人]</p> <p>イ 各人がルーブリック評価表を作成し、個別の指導計画の評価が、全体を通じて、より明確に観点別の記述となる。</p> <p>ウ 全グループで1本研究授業を実施。協議方法を工夫し、事後アンケートで満足度80%をめざす。</p>	
	(2) 自立活動の充実	<p>ア 摂食指導、運動姿勢・動作改善に加え、車いす簡易電動化ユニット、上肢機能補助装置、視線入力装置、重力軽減装置、プログラミング教材等の支援機器に関する知見を指導支援に活かし、その実践を全教員で共有できる仕組みを作る。</p> <p>イ 実態把握のためのアセスメントツールの導入により、教員の見立てが豊かになり、自立活動の個別の指導および授業の目標設定、及び手立ての充実につながるよう検討する。</p>	<p>ア 外部専門家の指導助言を動画やレポートにし、全教員が共有できる仕組みを作る。専門性を有する教員3人の教員がチームとなり巡回指導を継続し、「巡回成果事例報告」を全学部研修にて1回開催。</p> <p>イ アセスメントツールの妥当性を担当分掌部内で確認し、全校研修後、段階的に導入し実践する。</p>	
	(3) ICT 機器活用とオンライン教育の充実	<p>ア 電子黒板、タブレット活用と訪問教育を含めた遠隔授業等多様な学びの方法を探り、充実を図っていく。</p> <p>イ 充実のための、個人情報やネットワーク運用管理規則等の見直しを進める。</p>	<p>ア 全教員が自立活動や授業においてICT機器を使用。教員自己診断で「効果的に活用している。前年度以上[87%]</p> <p>イ 年度内に改訂し運用開始。</p>	
3 協働する力の向上	(1) 教職員の組織的専門性向上	<p>ア 各人のパートナーシップの発揮に加え、初任者に対してチューター(2～4年め)とメンター(部主事等)制を導入し、学び直しや各々の成長を確認し合い、OJTの充実を図る。</p> <p>イ 「個別の教育支援計画」とも関連付けながら交野マトリクスを活用する。 Mapping Sheet(交野支援版専門性チェックシート)を、校外研修等の受講計画や成果指標に活用し、自身の専門性向上に活用する。</p>	<p>ア 各学部の初任育成定例会は継続。毎学期1回以上 本校勤務経験の少ない教員の参加を大事に情報共有・協議する全員参加の学年会実施。ストレスチェック同僚サポート向上。前年度以上。[8.3ポイント]</p> <p>イ 保護者へのマトリクスの周知。 専門性チェックシートを活用して研修受講計画をする。</p>	
	(2) 教職員働き方改革推進	<p>ア 教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合ために (i)時間外在校時間縮減 (ii)休憩時間確保 (iii)校務効率化 (iv)安全衛生委員会企画による心身健康状態、職場安全衛生環境の向上</p>	<p>ア(i) 課業月に1回は全教職員17時退勤履行45H/月越えのべ人数減[26人]</p> <p>(iii)ICT化による業務軽減策を3つ以上講じる。</p>	
4 社会と繋がる力の向上	(1) 交流及び共同学習の充実	<p>ア 学校間交流(支援学校間でも計画を進める)、居住地校交流については、直接交流が難しい場合 DVD や web 会議システムなども活用をしながら、相互理解が深まるように取組み、積極的にHP上で発信していく。</p>	<p>ア DVD 等から対面の交流機会に戻す。実践と結果を学期に1回以上HP公開</p>	
	(2) 地域に開かれた学校作り	<p>ア 地域の住民の方々やスクールサポートスタッフ、委託の通学バス職員、給食調理員、技能員などとの交流を企画し、お互いが活性化できる取組みをする。</p> <p>イ 地域校舎へのリーディングスタッフによる支援終了後2か月以内に本校版1か月後票を地域校舎より提出していただき、より効果的なフィードバック、フィードバックに繋げていく。また、校内研修に地域学校園教員や関係機関職員を呼び込み支援教育関連校内研修開催で教員間連携を図る。</p>	<p>ア 地域住民との交流や連携授業を各学部1回以上実施し学校便りとしてHP記事発信。前年度以上。[9件]</p> <p>イ 市教委を通じて1か月後票回収を強化し、次回支援に生かす。校内研修参加の地域教員等者にはアンケートを実施、成果を検証。</p>	
	(3) キャリア教育の充実	<p>ア 校外でのスポーツ大会開催をはじめ、キャリア教育の一環としての学部間連携を進める。きょうだい学級を軸とした取組みを継続する。</p> <p>イ 教員向け福祉事業所等連携関係機関の施設見学や研修受講を推奨し、校外との縁結び力:教員のキャリア教育指導力向上をねらう。</p> <p>ウ 展示、児童生徒会活動(児童生徒会役員選挙運動や公約を果たす活動含む)、図書活動(読み聞かせや読書ランキング)、放送活動など含めた表現活動を活性化。校外競技・コンクール参加・外部講師連携事業などの取組みも推奨。</p>	<p>ア きょうだい学級所属の児童生徒・教員が相互理解を深める機会を年度当初のポッチャ練習等を契機に前年度以上に深める。</p> <p>イ 教員の専門性向上の一環として研修先や内容の希望を年度当初に計画、自己申告。</p> <p>ウ 対外発表を含めて、児童生徒自身が発信、発表した取組みをHP記事に掲載発信する。毎学期・各学部1回</p>	